

2025 年度 新潟食料農業大学

一般選抜【後期日程】

選択科目

国 語

一

次の(1)～(7)の傍線部にあてはまる漢字または正しい読みを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。また、(8)～(10)の傍線部の意味として正しいものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は

1

)

10

。

(1) 普^レヘン的なできごと。

- ① 変 ② 偏 ③ 編 ④ 遍 ⑤ 辺

(2) ケ^レン悪な雰^レ囲気になる。

- ① 嫌 ② 検 ③ 健 ④ 兼 ⑤ 険

(3) 人生の経験^ヲギョウ縮したような思想。

- ① 疑 ② 仰 ③ 凝 ④ 曉 ⑤ 業

(4) 神社や仏カ^クをめぐ^ル。

- ① 閣 ② 郭 ③ 隔 ④ 各 ⑤ 殻

(5) 抽シ^{ョウ}ウ的な表現を好む。

- ① 肖 ② 象 ③ 証 ④ 照 ⑤ 省

(6) 新たな方法への転換^ヲを促^ス。

- ① ソク ② オ ③ サ ④ ウナガ ⑤ ナ

(7) どうするべきかを諭^ス。

- ① ハナ ② キカ ③ サト ④ ユ ⑤ シメ

※このページは、国語の問題の最初のページです。

(8) この学校の生徒はおしなべて勤勉だ。

① とりわけ

② おおむね

③ なぜか

④ おそらく

⑤ 一部分だけ

(9) イノベーションが進んでいる。

① 技術革新

② 社会参画

③ 理解能力

④ 成長段階

⑤ 対話内容

(10) 青写真の通りに話が進行する。

① 望ましい進行の度合い

② 多くのアドバイスを受けた意見

③ 理想的な状態

④ 昔からの慣習

⑤ おおよその計画

二

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

学生と他愛もない話をしていた時、ちょっと個性的なことと知られる一人が、突然「先生は、この世に魔法があると思いますか？」という素っ頓狂なことを言い出した。その場に一緒にいたまじめな女学生は即座に「私はないと思います」とぴしゃりと答えました。確かに、そうなんだが……。困った私は、もじゃもじゃと「うーん。魔法のようなものなら、あるかもしれないけど……」と答えましたが、今、思い返しても要領を得ない返答です。

映画や物語などで、呪文を唱えれば、あつという間に願いを叶えてくれる魔法を見て、こんな魔法を自分も使えたらと子供心に思ったことは、誰でも一度や二度くらいはあると思います。しかし、そんな「なんとか、なんとか、パトローナム」とさえ唱えれば望みが叶うような魔法は、物語の中だけの話、現実には魔法なんてある訳ない、それはそうなのです。だから、魔法はあるか？ と問われれば、「ある」とは言えないけれど、(1) $1+1$ が 2 にならないようなことを「魔法」と呼ぶのなら、「魔法」はこの世に存在すると、私は思っています。

私は、今こうして本を書いたりしていますが、自分の本が本屋に並んでいるのを見ると、少し不思議な気持ちになります。小学校、中学校、高校とたくさんさんの作文を書かされましたが、先生に褒められたことなどただの一度もなく、実際文章を書くことはどちらかと言えば苦手な方でした。それが大学生になって、たぶんそれも大学院生になった頃だと思いますが、急に文章を書くことが好きになったのです。自分の心情のようなものを形にしたい、それよりもより洗練されたものとして文章にしたいというような情熱を持つようになり、文章を書いては消し、また書いては消し、のようなことを繰り返すようになりました。どうしたら書きかけの文章をより良くできるのか、といったことが四六時中頭にあり、その作業に熱中することに何とも言えない充実感をおぼえるようになったのです。そしてそのうち、いつか自分のエッセイを本にできたら、という夢を持つようになっていました。25～26歳頃の話です。

自分が夢見ていた「本屋に並ぶ本」にはなりません、自費出版でもするしかないか？ そんなことを思いながら、でも自分の中に溜まっていたものを吐き出すように、熱に浮かされたように、とりあえず原稿を書いてみました。書きたいことはすでにまとまっていたので、1カ月半くらいで草稿は出来上がりましたが、危惧していた通りそれを読んでくれる出版社が見つかりません。細いつてを頼って新書を何冊も書いている人に連絡をとることができましたが、「世に本を出したい人なんてごまんというから、出版社の方から声がかかるようにならないと無理だよ。時間の無駄」と、一文字も原稿を読まずに言い捨てられる始末でした。もうお蔵入りか、自費出版かと半分諦めかけていた矢先、いくつかの幸運と友人の助けがあって、大手出版社の編集長に原稿を読んでもらえるチャンスを得ました。返事がもらえるまで半年以上はかかりましたが、新書として本を出してもらえることになったのです。無名新人の持ち込み原稿がメジャーレベルで出版してもらえるなんて、僥倖きやうていとしか言いようがなく、すぐには自分でも信じられないことでした。本

当に魔法でも使ったような気分でした。

この時、私が使った「魔法」とは、小さな夢を持ち続けたこと、自分の中にある情熱のようなものに忠実に従ったこと、そして「自分の書いたものは面白い。読む人が読めばわかってもらえる」という根拠のない自信を自分に信じ込ませていたこと、そういった諸々のことだと思っています。そういったものが、「1000冊しか売れない新書を出す出版社はない」という「道理」を越えて、何か魔法を使ったかのようなことを現実に起こしてくれました。自分がそう願っていたら、この世界に起こらなかったはずのことが、現実の世界に姿を現したのです。

夢を見ることは、得てして地に足がついていないように映り、脳内お花畑、とか、夢見がちの不思議ちゃんとか、最近(2)それを押さえる風潮が強いように感じます。でも、地に足をつけるということが、 $1+1$ が 2 になって喜ぶことを指すのなら、それは何とつまらないことでしょう。また、自分の力を把握するということが、自分の限界を決めることを意味するのなら、それは常に有益な作業とは言えません。なぜなら生き物の最大の特徴の一つは成長することであり、自分の限界だと思っていることを超えていくこと、 $1+1$ が 3 にも 4 にもなることが、人間の世界では実際に起こり得るのです。今の自分には届かないようなことであっても、それを夢見つづけることで、いつかそこにたどり着く。それは、それに向けた情熱や努力があれば、必ずとは言えませんが、少なくとも確率で、人生で起こっていくのです。そう、夢見る力こそが、人が使える「魔法」、より正確に言えば、いつも成功するとは限らない「魔法のようなもの」なのです。

デイズニーの「ライオン・キング」に、主人公である子ライオンのシンバが、失意の中、ミーアキャットのティモンとイボイノシシのプンバに助けられ、ジャングルの中でつましくも楽しく暮らしていく場面があります。自分のせいで父親が亡くなったと思って絶望しているシンバは、陽気なティモンとプンバが歌う「ハクナ・マタタ（心配ないさ）」に勇気づけられ、王子としてではなく、ジャングルに生きる一匹の動物として暮らしていきます。しかし、ある日、水面に映った自分の姿を見て、再びライオンとして、王として生きる道を選んでいくというストーリーです。初めてこの映画を見た時、私はこのストーリーに大いに違和感を持ちました。何もライオンとして生きていくのが偉いわけではなく、ティモンとプンバと共につましくも楽しく暮らしていった一体何が悪いのだ、とそう思いました。実際、この物語を世襲制の絶対王政を賛美していると批判する人たちもいます。

しかし、今思うのは、(3)シンバは勇氣をもつて再び立ち上がった方がやっぱり良かったということです。それは王が偉いとか、イボイノシシは臭いとか、そういうことはありません。一番大切なことは、シンバが本当にやりたいことは何だったのか、という点なのです。青年になったシンバのたくましい体と鋭い爪で、昆虫や植物を食べる生活は、本当に心の充実感を得られたものだったのでしょうか？ いくら日常的に楽しく暮らしていったとしても、ここは自分の居場所ではない、そう感じることはなかったのでしょうか？ 王になるというのはあくまで「A」なのです。

別のたとえで言えば、もしあなたが何かの植物の種子だとしたら、その中には、たとえばイネになっていくような、あるいはハクサイになっていくよ

うな遺伝子が、別の言葉で言うなら可能性が、秘められています。もしハクサイの種を水田に植えたとしても、イネにはなりません。もちろん水の中ではハクサイとしても育っていきませんが、その種子の中にはハクサイになりたい、というような内的な欲求と言えはよいのか、可能性と言えはよいのかわかりませんが、何かそういう(4) が備わっているのです。肉食動物は、やはり肉が食べたいのです。なぜ昆虫食ではないいけないのか、と問うてみても、それはあまり意味がありません。そういう が、すべての生き物の中に、そしてすべての人の中には秘められており、それは何かを好きになったり、何かに情熱を持てたり、そういった形で発露してくるのではないか、私はそう思うのです。

夢を見ることは、そういった が、どうにもならないもの と、少しづつながっているように思います。何かに憧れたり、何かを好きになったり、それは誰に頼まれた訳でもなく、自分の中に湧き上がってくる感情です。そういった情熱に従うことや、夢を持つことは、自分に少し負荷をかけることです。筋トレをすれば少しずつ筋肉がついていくように、その負荷と向き合うことで少しずつ自分が成長していきます。

夢見る力は世界を変えていく(5) 「魔法」です。誰かが夢見なければ、この世に現れなかったものが、夢見たことで現れる。そこには呪文こそありませんが、それは魔法の定義そのものです。だから世界各地にあるたくさんの童話やファンタジーは、子供たちが夢を見られるように、「魔法」を使えるように、その大切さを心に刻むように、多くの魅力的な物語を紡いでいるのです。夢見ることは、決して恥ずかしいことではありません。恥ずべきことがあるとするなら、それはその実現に向けての努力を怠っていることだけなのです。

(中屋敷均 ひとし 『わからない世界と向き合うために』による。出題の都合上、表記を改めたところがある。)

問1 傍線部(1)「1+1が2にならないようなこと」とあるが、これに対する筆者の考えとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

① これは、努力しても期待した通りの結果につながらないようなことを意味した表現で、時には現実的に自分のことを見つめるべきだと筆者は考えている。

② これは、同じように努力を続けると、それが積み重なって大きな成果につながることを意味した表現で、人生のあらゆる面で悲観的になってはいけないと筆者は考えている。

③ これは、最初は想像もしなかった大きな成果を得られる可能性があるということの意味した表現で、筆者はこれを大切にすべきであると考えている。

④ これは、一つひとつの物事を、同じように努力して乗り越えていこうとしても、状況によっては想定外に苦勞することもあることを意味した表現で、筆者は人生には苦勞がつきものであると考えている。

⑤ これは、一人では乗り越えられないようなことでも、友人と力を合わせて取り組むと、大きな成果を上げることもあるということの意味した表現で、円満な人間関係を構築することが重要だと筆者は考えている。

問2 傍線部(2)「それを揶揄する」とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 夢を見て生きている人のことをうらやましく感じること。
- ② 夢を見たまま生きていこうとする人たちのことをからかうこと。
- ③ 夢を見ることを擁護しようとする筆者の姿勢に、疑問を投げかけること。
- ④ 夢を見ることを、地に足がついていないことだと声高に非難すること。
- ⑤ 夢を見ることに期待しすぎてはいけなさと警戒すること。

問3 傍線部(3)「シンバは勇気をもって再び立ち上がった方がやっぱり良かったということです」と筆者が考えるのはなぜか。最も適切なものを、次の

- ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① よりよく生きていくためには、努力することを忘れてはいけなさと筆者は考えているから。
- ② 結果として王という地位につくことができ、社会的成功を得られたと筆者は考えているから。
- ③ つつましくも楽しい生活を送るためには、我慢することも必要だと筆者は考えているから。
- ④ 水面に映る自分を見て意識を変えたように、小さなきっかけをつかむことが大切だと筆者は考えているから。
- ⑤ 自分が生まれながら持っている欲求を満たして生きることが大切だと筆者は考えているから。

問4 「A」にあてはまる最も適切な言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① メタファ
- ② バイアス
- ③ エッセンス
- ④ ニュートラル
- ⑤ ヒエラルキー

問5 傍線部(4)「どうにもならないもの」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 現状をつまらないと思うことをきっかけに、自分の理想とする姿について考えた結果、何とかして自分を変えたいと強く願うようになった心のことであり、理性では制御することはできないものである。
- ② 多くの人と接してさまざまな意見を取り入れていく中で、自分が進みたい方向が定まり、可能性を広げたいと強く願うようになった気持ちのことで、努力を続けるように支えてくれるものである。
- ③ 成長していく過程で夢を持ち、その夢に向けての努力を続けた結果、自分の中に育っていく感情であり、さらなる努力を続けられるようにしてくれるものだと言われている。
- ④ どれだけ周囲に反対されたり悪く言われたりしても止められない、自分が何としても成し遂げたいと思う生き方に進もうとする気持ちであり、人間特有のものだと筆者は考えている。
- ⑤ 理性で変えたり止めたりすることができない、自分のあり方に対して持っている本能的な欲求であり、それはこうありたいと願う自分の希望する生き方に向けて進む力となるものである。

問6 傍線部(5)「『魔法』」とあるが、本文における「魔法」に関する説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 自分の目先の欲望をかなえようとして、とにかく努力をし続けることによって、現状を変えることにつながるきっかけをつかむことを、本文では「魔法」と呼んでいる。
- ② 筆者の初出版にまつわる体験においては、ほかのあらゆる気持ちを抑えて、とにかく文章を書き続けるという努力を続けていく中で、運良く出会えた縁を大切にすることが「魔法」にあたる。
- ③ 自分がどう生きたいかという本能的欲求に従い、努力せずにそれがかなうことをひたすら夢想することが、人生に潤いを与えるようになることを、本文では「魔法」と呼んでいる。
- ④ 自分の人生に夢を持ち、それに向かって情熱に従い努力するという負荷をかけ、自分の抱いた生き方に関する夢をかなえる可能性を大きくするものが「魔法」である。
- ⑤ 冒頭の学生の話において、魔法の存在を頭ごなしに否定した学生に対して、ある意味で「魔法」と呼べるものがあると考えている筆者は不愉快な気持ちになった。

三

次の文章を読んで、後の問い（問1～問6）に答えなさい。

現代社会には三種類の経済が併存している。

第一は市場経済、第二は非市場経済、第三は市場を活用してはいるが市場原理だけで営まれてはいない経済、すなわち「半市場経済」である。

社会はひとつの経済だけで営まれてはいない。たとえば、資本主義が形成されても、それ以前とほとんど変わらない職人や街の商店の経済も存在するし、農民の経済の大半も資本主義的に営まれたわけではなかった。経済は常に(1)複合経済として展開してきたのである。

といっても、その時代の主導的な経済は存在する。近代以前には農民や職人、商人たちの経済がこの時代を主導し、現代では市場経済が主導的な地位を確立している。だが主導的な経済の背後には、伝統的に受け継がれてきた経済や新しく創生された「異質」な経済が動いているのもまた確かなのである。経済は複合経済として展開しているということを提起した経済社会学者に(註)カール・ポランニーがいる。彼が提起したのは、市場経済の時代にあっても非市場経済が存在しているということであった。

それは私のように、上野村という山村にも生活の場をもっている人間にはよくわかる。上野村でも市場経済が存在していることに変わりはないが、市場を介さない経済が生命力をもち続けているのが村という社会でもある。村人は自家消費用の作物を育て、自然からもさまざまな有用物をもらっている。これもまたひとつの経済活動ではあるが、市場とは無縁の経済である。村ではたえず「お裾分け」が行われ、それが大きな経済的役割を果たしている。よい作物やおいしい漬け物ができたといつてはあげあうような経済である。さらには協力しあうというかたちで、しばしば無償の労働も提供しあっている。ポランニーのいう互酬性の経済がいまもあり、そのことがあまりお金のからまない地域社会をつくりだしているのである。

自然との関係や人間同士の関係が強くなれば、常にこのような非市場経済は成立すると考えてもよいだろう。都市では非市場経済が弱体化しているのは、自然や人間との関係がひ弱だからに他ならない。逆に述べれば、都市でも他者との関係が築かれていくと、非市場経済は芽生えてくる。友人同士でものを交換したり、引越を手伝ったりというようなことも、またひとつの非市場経済である。経済という視点から見れば、家事もまたひとつの経済活動であるが――その証拠に家事を外注すれば市場経済が成立する――、多くの場合は非市場経済として行われている。家族的な関係がそれを成立させるのである。

だが、市場経済と非市場経済をみただけでは、経済の全貌は明らかにならない。もうひとつ、市場を活用してはいるが市場原理だけでは営まれていない経済が存在する。それが(2)「半市場経済」であり、この経済もまたいつの時代にも存在してきた。

すべての原理は、(3)単純な原理であればあるほど人間たちを飲み込んでいく性格をもっている。なぜなら、単純な原理は成果もまたわかりやすいから

である。たとえば、金利一パーセントの銀行と二パーセントの銀行のどちらがお金を預けるにはよいのかという単純な原理が示されれば、多くの人たちは二パーセントの銀行に預金することになるだろう。そういう行動を生み出す原因は、金利の違いだけではなく、お金自身が実にわかりやすい原理でつくられただけのものだからでもある。一〇〇万円と二〇〇万円のどちらに価値があるかということなら、誰にでもわかる。

市場経済もまた単純な原理によってつくられている。企業がめざしているのは利益の最大化であり、そのために実に単純なことが繰り返されている。【Ⅰ】それは安く買って高く売ることであつたり、利益率は低くても大量に売るとか、数は少なくても利益率を高めるためにブランド力を上げるといったことであり、実際にいまでも株や証券取引の世界では安く買って高く売る行為が繰り返されている。経費を削減することによって利益を増やそうとするのも、安い労働力によって製造しようとするのも単純な原理であるが、その成果が貨幣量というわかりやすい指標で表われるがゆえに、人間はこの仕組みに飲み込まれやすい。

だが、単純な原理に支配された社会にもたらされる結果は、社会の劣化でしかない。貨幣にしか価値が見いだせなくなることも社会の劣化であり、貨幣量を増大させるためにコスト削減などを繰り返していけば、社会全体が少しずつ劣化していつてしまう。実際それがいまの社会でもあるのだが、気がついてみると自分もまたこの仕組みのなかで翻弄ほんろうされていた、と多くの人が感じているのが現代でもある。そしてそれは、自分は市場経済のシステムに翻弄ほんろうされていただけで、何者でもなくなっていたという感覚を呼び覚ます。

【Ⅱ】今日の日本の社会のなかでは、市場経済だけでなく、非市場経済も、半市場経済も展開しているのである。そして、市場経済に存在のつまらなさを感じた人々は、非市場経済や半市場経済に関心を寄せるようになった。いまではどれほど多くの人たちが、あまりお金を使わない生活に憧れていることだろうか。

そのためには、非市場経済の部分を拡大しなければならない。またどれほど多くの人たちが、市場原理だけに振り回されない、志を大事にした経済、半市場経済を創造しはじめていることだろうか。

ところで、「資本主義は問題だらけだが、しかし次の社会は提起されていない。かつては社会主義という提起もあったが、それに替わるものがつくられていない」。そんな意見を私たちはよく聞く。だがこの意見は、社会主義が未来の社会として語られていた時代の幻影でしかない。

社会はそのようなかたちでは変化していかない。そうではなく、ひとつの時代のなかで育はぐまれていたものが次第に力をつけ、それが主導的な役割を果たす時代が生まれたとき、社会は変わっていたのである。

資本主義の成立も同じだった。それまでの社会のなかからマニファクチュアの工業や資本家的商人が発生し、それらが力をつけて社会を主導するようになったとき、資本主義は成立していた。今日の一般的な企業形態である株式会社というかたちも、その始原は大航海時代にまでさかのぼる。古い時

代のなかで育まれていたものが、新しい時代を領導したのである。

とすると、今日の市場原理だけに従わない新しい経済モデルの実践は何を意味しているのだろうか。それは大きな(4)社会変革の萌芽^{ほうが}なのかもしれない。逆にそのような力^{ちから}はもたないのかもしれない。

【Ⅲ】そのような曖昧^{あいまい}な言い方をするのかといえば、社会改革へとつながっていくのかどうかは、この動きがどこまで広がっていくのかにかかっているからである。社会変革は実践を通して生まれてくるものであって、評論風に語るものではない。

半市場経済的な動きとして成立してきた新しい価値を多様につくりだす試みは、実際にはたえず壁にぶつかっている。持続するためには市場経済的にも成立していなければならないが、そのことを重視すれば志が曖昧になり、逆に志だけで動けば経営の持続が困難になる。社会とのつながり方、ともに働く仲間との関係のつくり方も定まったモデルがあるわけではない。ゆえに、たえず動揺を繰り返しながら模索を繰り返していくのが、この経済活動である。しかし、いま私は、それをマイナスイメージで語ってはいない。そのひとつの理由は、半市場経済的活動はたえず創造、新しい価値のたえず共創とともに展開するものだからである。すなわち「このかたち」ではない。市場価値とは違う新しい価値をたえず共創していくダイナミズムのなかに、半市場経済は存在している。ゆえに定まったかたちのなさが、一面ではこの活動の力なのである。

とともに最近では経営的苦しさを甘受しながら志を大事にしていくのが半市場経済では必ずしもなくなってきた。むしろ新しい価値の創造を進めることによって、それに共感する人々が生まれ、経営的にも安定するという事例が生まれてきている。いわば半市場経済的な活動を続けることで、その考え方に対する共感の輪が生まれ、それが経営をも支えるという展開がはじまっているのである。

そして、このような展開を背後で支えているのは、市場経済に管理されながら生きる人間が現在もっている存在感のなさである。その存在感のなさが関係的生き方を希求させ、それが新しい共感をつくりだす基盤になっている。

とすると半市場経済の動きには、現代社会のさまざまな面が関係していることになる。単なる新しい経済の創造ではなく、いまの社会のさまざまな問題が、半市場経済の創造というところで結ばれているのである。

市場経済とともに展開する現代世界のあり方に限界を感じた人々が、いま社会の奥で新しい胎動を開始している。

(内山^{たかし}節『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』による。出題の都合上、表記を改めたところがある。)

(注) カール・ポランニー——ウィーン出身の経済学者。

問1 傍線部(1)「複合経済」とあるが、「複合経済」についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

17。

- ① 農業従事者が農作物を生産すると同時に、それを加工し、販売するという、複数の段階の経済活動に関わる人が存在するということ。
- ② 伝統的に受け継がれてきた市場経済のあり方に、新しい市場経済のあり方が入り込んできて、まったく新しい経済活動の姿が形成されてきているということ。

- ③ 市場を通じた経済活動があると同時に、市場を介在させない、人間関係に基づいた無償の経済活動も存在すること。

- ④ 市場経済と市場を通さない非市場経済が併存しているが、非市場経済の方がきわめて活発に行われているために、生活ではお金を使うことがほとんどないということ。

- ⑤ これまではあまり市場を通してこなかった家事などの無償労働に、市場を介入させることで、経済活動の一種にしようとしていること。

問2 傍線部(2)「『半市場経済』」の特徴として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 市場的価値だけを求めるのではなく、まだ定まったかたちを持たない活動の中から、新たな価値を創造することにつながるものである。
- ② 市場を活用しながら、市場原理だけでは営まれない、これまでには存在しなかった新しい形の経済活動であり、新たな社会を創造する可能性を秘めたものである。
- ③ 非市場経済が優位だった昔の経済活動から、市場が発達している現在の経済活動の過渡期に存在したもので、昔の都市部に見られたものである。
- ④ 自然や人間同士のつながりが薄くなってきたために、従来の非市場経済が市場経済に変わらざるをえない状態になっているときに見られる経済活動である。
- ⑤ 現在の資本主義社会に替わる新たな社会を求める人たちの多くが想定する、今後の社会に大きな影響を与えると考えられるものである。

問3 傍線部(3)「単純な原理」とあるが、筆者はこれに対してどのような考えを持っているか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

い。解答番号は 19。

- ① あまりに単純なものは、わかりやすいという利点がある一方で、多くの人が無条件で信じにくいという問題点も含むもので、社会のあり方は単純さと複雑さの両方を適度に持つのがよい。
- ② 原理が単純だと結果もわかりやすく、多くの人が賛同しやすい状況を作っていくことができるので、皆で力を合わせて社会をよりよくするため役に立つものである。
- ③ 誰にとってもわかりやすいものであるため、多くの人が納得して参加することができ、個々人は充足感を得ながら努力するが、社会全体は劣化してしまうおそれがある。
- ④ わかりやすい理屈であるために人間はこの仕組みにスムーズに入っていくことができるが、人間が存在感を自覚できない状況と社会の劣化を招いてしまうものである。
- ⑤ 利益の大きさや自分にとっての有利さの程度がわかりやすい反面、社会全体への影響がつかみにくく、無条件で参加することには誰もがとまどいを持ってしまうものである。

問4 文中の空欄【Ⅰ】～【Ⅲ】に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

20。

- | | | | |
|---|----------|-----------|----------|
| ① | 【Ⅰ】…あるいは | 【Ⅱ】…一方では | 【Ⅲ】…さて |
| ② | 【Ⅰ】…そのため | 【Ⅱ】…なぜなら | 【Ⅲ】…たとえば |
| ③ | 【Ⅰ】…たとえば | 【Ⅱ】…したがって | 【Ⅲ】…なぜなら |
| ④ | 【Ⅰ】…だから | 【Ⅱ】…しかし | 【Ⅲ】…なぜ |
| ⑤ | 【Ⅰ】…たとえば | 【Ⅱ】…ところが | 【Ⅲ】…なぜ |

問5 傍線部(4)「社会変革」とあるが、これに関する筆者の考えとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

21。

- ① 現在の資本主義を変える力を持っていなかった社会主義だが、資本主義を見直すうえで役立つものなので、半市場経済のあり方を探りながら、社会主義の考え方に学ぶべきものがあると考えている。
- ② 現在の社会を形成する資本主義に対置される何かがあるのではなく、今の社会の中で成長したものが社会変革を成し遂げると考えており、筆者は半市場経済の動きが広まれば社会変革も起こりえると感じている。
- ③ 資本主義を変えるのは並大抵のことではないが、多くの人が資本主義に振り回されただけだと感じているのは間違いないことなので、新しい社会主義のあり方を模索することは重要だと考えている。
- ④ 多くの問題をはらむ資本主義社会を変革する新たな社会構造はまだ存在しないが、半市場経済の動きをよく観察することで、かつての社会主義のように今の社会に替わる社会が突如生まれると考えている。
- ⑤ 現在の資本主義社会を形作っているさまざまなものは、はるか昔から徐々に時間をかけて育まれてきたものであり、それだけ強固にできているといえるため、社会変革が起こるかどうかわるは疑問視している。

問6 次のア～オの中から、本文の内容に合うものをすべて選ぶとどうなるか。最も適切なものを、あとの①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

ア 「お裾分け」に代表される人間同士の関係の強さに基づいて行われる非市場経済活動は、一般的な経済活動の分類には含まれない。

イ 古くから行われてきた「お裾分け」や「あげあう」という行為は、カール・ポランニーのいう「互酬性の経済」にあたる。

ウ 市場経済の仕組みに振り回されて疲れ切った人々は、別のシステムに関心を向ける余裕すらなくしてしまった。

エ 半市場経済的な動きは、スムーズに展開しているわけではないが、それは今の社会には存在しない新たな価値を模索しているためであり、悲観すべきではないと筆者は考えている。

オ 半市場経済の動きを支えているものには、考え方への共感も含まれるが、この共感が起こるのは市場経済によって自分の存在感を感じられなくなったことも原因として挙げられる。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| イ・ウ・オ | ア・ウ・オ | ア・ウ・エ | イ・エ・オ | ア・イ・エ |